



横瀬町長 富田能成氏

町長のメッセージ

四季折々の美しい色彩豊かな景観があって、そこに温かい人の輪がたくさんある。その一人一人はいろいろな人がいて、みな自分らしく幸せに生きている。それが、横瀬町が目指している“カラフルタウン”です。

この実現に向けて、5年目に入った官民連携プラットフォーム「よこらぼ」は、地方創生に資するアイデアや事業など民間の多様なチャレンジを応援する仕組みとして定着し、着実に実績を伸ばしています。

当町は、「日本一チャレンジする町、チャレンジを応援する町」として、“カラフルタウン”実現を目指していきます。

はじめに

横瀬町は都心から約70km、埼玉県の西部に位置し、東はときがわ町に、南は飯能市に、西と北は秩父市に接している、面積約50km²、人口約8千人の町である。

交通面は、国道299号と西武秩父線が東西に走り、横瀬駅と芦ヶ久保駅の2駅が設置されている。西武秩父線の電車が横瀬駅に近づくと、雄大な武甲山が見え、秩父盆地に入ったことを実感する。

町域は山林・原野が約7割を占め、観光農園など農業も盛んである。観光農園ではいちご狩りやブドウ狩りなどを楽しむことができる。武甲山にも多くの登山客が訪れるほか、秩父札所34カ寺のうち、6カ寺が町内に所在していることから、札所巡りで訪れる人も多い。冬場は寒さが厳しいことから来訪者は少なかったが、最近では厳しい寒さを逆に利用した、「あしがくぼの氷柱」が「インスタ映えする」と、若い人からの人気を集め、冬場も来訪者が増えている。

都心からのアクセスはとてもよい。西武池袋線・秩

父線は2019年3月に新型特急列車ラビューを導入、現在は全特急列車がラビューに置き換わっており、快適な特急列車で車窓を楽しんでいると、池袋から最短72分で横瀬駅に到着する。都心からのアクセスがよく、観光資源が豊富で、どこか懐かしい田舎を感じるこののできる横瀬町は、大変魅力にあふれた町である。

エリアハチキュウハチ

★役場なのにおしゃれなArea898

横瀬町には「Area898」と呼ばれる施設がある。898はもともと、8(ヤ)9(ク)8(バ)、つまり「役場」という意味から来ている。JA旧直売所の跡地の再利用ながら、ボランティアによる手作業での内外装工事が功を奏し、おしゃれなカフェ風に仕上がっている。町の施設ではあるものの、外見からも、内装からも、「オープン&フレンドリー」という想いが感じられる施設となっている。

横瀬町では、人口減少に歯止めをかけようと、官民連携による様々なプロジェクトに取り組んでいる。その一つが「よこらぼ」という仕組みである。「よこらぼ」とは、「横瀬町とコラボする研究所」の略で、地方を拠点に新しいことにチャレンジしたい企業・団体・個人が、アイデアやプロジェクトなどについて、横瀬町をフィールドに、実際に社会実装などを実施できる仕組みである。寄せられる多くの提案の中から、提案者・町民・地域の3者それぞれにしっかりしたメリットがあり、提案者の熱意が感じられる提案が採択される。町内外問わず多くの人や企業・団体からの



Area898で開催されたイベントに参加する町民の方々

横瀬町概要

人口(2021年1月1日現在)	8,131人
世帯数(同上)	3,358世帯
平均年齢(2020年1月1日現在)	50.2歳
面積	49.36km ²
製造業事業所数(工業統計)	19所
製造品出荷額等(同上)	335.5億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	45店
商品販売額(同上)	56.1億円
公共下水道普及率	39.6%
舗装率	61.2%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 西武秩父線 横瀬駅、芦ヶ久保駅
- 関越自動車道 花園ICから町役場まで約37km

申し込みがあり、2021年1月現在では、155件の提案のうち、86件が採択されている。採択されたプロジェクト実施に際しては、町がサポートを行うが、町としても提案者のノウハウを吸収でき、新たな町民サービスが提供できるなど、お互いにWin-Winの関係を築くことができる。

この「Area898」も、よこらぼで採択された提案が発展してできた施設であり、横瀬に関わる人たちの打合せのスペースやコワーキングスペースとして、また、イベントや勉強会、交流の場として活発に利用されている。

★民間の複業人材の活用による地域活性化

横瀬町は複業人材マッチングプラットフォームを運営する民間会社と連携し、「複業人材と創る横瀬の未来プロジェクト」を展開している。これも「よこらぼ」への提案を受けて、採択されたものである。

これは専門的な業務に関するノウハウをもった民間の複業人材を町の活性化に活用しようとするものである。昨年11月には6つの業務で複業によるプロ人材を募集したが、報酬はないにも拘わらず、募集開始から多くの応募があり、43名の応募者の中から3名が採用された。

地方創生に貢献したいという人が多いことには勇気づけられる思いがあるが、横瀬町が田舎を感じることができながら、都心からアクセスが容易であるという要因も大きいかもしれない。

★ユニバーサル野球で誰もが生き生きと

横瀬町は鉄道車両の整備・点検を行う民間会社と連携し、「ユニバーサル野球で世界に楽しみをつくらう!」プロジェクトを展開している。これも「よこらぼ」への提案を受けて、採択されたものである。

ユニバーサル野球は一般的な野球場の20分の1相当の大きさのユニバーサル野球場を使用して行われる。ホームベース上にある回転するテーブルの上のボールをバットで打って行うが、わずかな力で打てるため、障がいのある人もない人もともに参加し、楽しむことができる。また、車椅子に乗ったままでもバッターボックスに立つことができる。得点も掲示板で表示されるなど、臨場感もあり、仲間を応援する喜び、応援される喜びを感じることができる。

昨年11月には町立小学校で6年生による体験試合が行われたほか、秩父市の障がい者支援施設でも体験試合が行われ、応援も含め、大いに盛り上がった。

(太田富雄)



町立小学校で行われたユニバーサル野球の体験試合